

科目名	原価計算論Ⅱ Cost Accounting II						
科目担当者	森田 英二 MORITA Eiji						
単位数	2	配当年次	2年	授業形態	講義	開講学期	後期
履修学部・学科 [区分]	経営学部・経営学科 [専門教育科目 専門科目]					ディプロマポリシーとの関連	(2)(4)
授業の概要	<p>まず、製品における「原価」とは、どのような流れで形成されるのかということ把握する。その上で、工業簿記と原価計算における各計算体系を解説していく。工業簿記と原価計算は製造業に関心のある者にとっては必要な知識であり、企業の会計部門以外でも原価や原価計算の知識が必要とされることがある。また、原価の仕組みを知ることは身近にある製品原価を推定できるようになる。</p> <p>講義の内容については、日商簿記検定2級工業簿記の範囲とレベルを設定しており、商業簿記との相違点にも留意しながら学習を進めてほしい。</p>						
授業の到達目標	<p>講義を通して以下の目標を達成する。</p> <p>①仕訳と勘定記入、財務諸表の作成により工業簿記の全体像を理解する。 ②原価計算における計算体系を学習して、原価の形成過程を理解する。 ③身近にある製品原価を推定できる。</p>						
授業計画・内容	1	製造間接費の差異分析					
	2	標準原価計算の記帳と財務諸表					
	3	CVP 分析					
	4	直接原価計算					
	5	本社工場会計					
	6	個別原価計算の方法					
	7	仕損の会計処理					
	8	製造間接費の部門別計算					
	9	製造間接費の部門別予定配賦					
	10	実際原価計算の差異分析					
	11	費目別計算①(材料費会計)					
	12	費目別計算②(労務費会計)					
	13	費目別計算②(経費会計・営業費会計)					
	14	特論(原価の法則)					
	15	まとめ					
授業外学修 (事前学修)	毎回、テキストの学習範囲を熟読し、必要に応じて商業簿記の基礎と原価計算論Ⅰの復習をしておく(毎週2時間程度)。						
授業外学修 (事後学修)	毎回、解答した問題演習の復習を行い、苦手な分野は反復練習すること(毎週2時間程度)。						
成績評価方法・ 評価比率・到達 目標との対応	成績評価方法				評価比率	到達目標との対応	
	定期試験 問題演習の進捗度				60% 40%	①、②、③ ①、②	
成績評価基準	秀：(評点90点以上)到達目標を極めて高い水準で達成している場合 優：(評点80点～89点)到達目標を高い水準で達成している場合 良：(評点70点～79点)到達目標を一定の水準で達成している場合 可：(評点60点～69点)到達目標を最低限の水準で達成している場合 不可：(評点60点未満)到達目標に達していない場合						
教科書	桑原知之『日商簿記2級とおるテキスト 工業簿記』ネットスクール出版						
参考文献	なし						
その他	<望ましい受講生> 受講生は商業簿記の基礎(日商簿記3級程度)を習得しておくこと。 <あらかじめ受講してほしい科目> 「簿記論Ⅰ・Ⅱ」または「上級簿記A・B」「会計学Ⅰ・Ⅱ」 <併行して受講してほしい科目> 「管理会計論A・B」						